

深刻な過疎化に直面する東京都奥多摩町は今年度、鉄道駅周辺にある空き家を若い夫婦らに無償提供する事業を始める。まず14日に第1号として、昨年末に町が主催した見合いの場に参加し、結婚したばかりのカップルに町長が直接、目録を贈呈する。

同町は定住の受け皿づくりの一環として、所有者からの寄付を受け町が所有する空き家は無償で提供する「いなか暮らし支援住宅」制度を既に導

空き家 無償で提供

奥多摩町が過疎対策

入。ただ、対象地域が町全域にわたるため、新事業では6月町議会に提案する新条例に基づき、町外に通勤・通学しやすいJR青梅線の駅（奥多摩など計5駅）周辺地域に指定している「若者定住促進ゾーン」に限る。

対象者は世帯主が40歳以下の夫婦または50歳以下で中学生以下の子供がいる世帯。15年間継続して居住することも条件とする。世帯主はその間、使用料として毎月1万円強（土地・建物の固定資

14日、第1号の夫婦へ

産税評価額の2分の1相当額）を支払うが、住宅の改修費用に充てられる既存の補助金（200万円）と新条例に基づく定住祝い金（50万円）を支給するため、実質的に無償譲与になる。

初の贈呈先となるのはともに40歳代の夫婦。町は「若者定住ゾーン」内にさらに数件の空き家を所有しており、今年度中にはこれら物件も無償提供する考えだ。

奥多摩町の人口は5343人（6月1日現在）。